

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成28年11月4日(2016.11.4)

【公開番号】特開2016-168062(P2016-168062A)

【公開日】平成28年9月23日(2016.9.23)

【年通号数】公開・登録公報2016-056

【出願番号】特願2016-130419(P2016-130419)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 1 2 N 5/07 (2010.01)

C 1 2 N 5/0735 (2010.01)

C 1 2 N 5/074 (2010.01)

C 1 2 M 1/00 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

C 1 2 N 5/07

C 1 2 N 5/0735

C 1 2 N 5/074

C 1 2 M 1/00 A

【手続補正書】

【提出日】平成28年7月29日(2016.7.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

アジド官能化糖を有する代謝工学の生成物ではない天然の官能基を含む表面を有する生細胞；及び

該天然の官能基に共有結合される核酸部分を含む組成物。

【請求項 2】

天然の官能基がアミノ酸を含む、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 3】

アミノ酸が、リジン、システイン、チロシン、スレオニン、セリン、アスパラギン酸、グルタミン酸及びトリプトファンからなる群から選択される、請求項 2 に記載の組成物。

【請求項 4】

アミノ酸がリジンである、請求項 3 に記載の組成物。

【請求項 5】

細胞が真核細胞である、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 6】

細胞が哺乳動物細胞である、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 7】

細胞が原核細胞である、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 8】

細胞が植物細胞である、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 9】

核酸部分が、オリゴヌクレオチド、DNA、RNA、PNA及びアプタマーからなる群から選択されるメンバーを含む、請求項1に記載の組成物。

【請求項10】

核酸部分が一本鎖DNAを含む、請求項1に記載の組成物。

【請求項11】

核酸部分が約10～約200個の核酸を含む、請求項1に記載の組成物。

【請求項12】

核酸部分がアプタマーを含む、請求項1に記載の組成物。

【請求項13】

核酸部分がリンカーを含む、請求項1に記載の組成物。

【請求項14】

細胞表面上にリジンを含む生きた哺乳動物細胞；及び
アミドを介してリジンに共有結合される一本鎖デオキシ核酸
を含む、請求項1に記載の組成物。

【請求項15】

アジド官能化糖を有する代謝工学の生成物ではない天然の官能基を含む表面を有する生細胞と、核酸部分とのコンジュゲートを製造するための方法であって、該方法は、前記核酸部分をアミノ酸と反応させて、共有結合を形成するような条件下で、前記生細胞と活性化された核酸部分とを接触させることを含む、上記方法。

【請求項16】

天然の官能基がアミノ酸を含む、請求項15に記載の方法。

【請求項17】

アミノ酸が、リジン、システイン、チロシン、スレオニン、セリン、アスパラギン酸、グルタミン酸及びトリプトファンからなる群から選択される、請求項16に記載の方法。

【請求項18】

アミノ酸がリジンである、請求項17に記載の方法。

【請求項19】

細胞が真核細胞である、請求項15に記載の方法。

【請求項20】

細胞が哺乳動物細胞である、請求項15に記載の方法。

【請求項21】

細胞が原核細胞である、請求項15に記載の方法。

【請求項22】

細胞が植物細胞である、請求項15に記載の方法。

【請求項23】

細胞が、アジド官能化糖を導入するために代謝工学を受けていない、請求項15に記載の方法。

【請求項24】

核酸部分が、オリゴヌクレオチド、DNA、RNA、PNA及びアプタマーからなる群から選択されるメンバーを含む、請求項15に記載の方法。

【請求項25】

核酸部分が一本鎖DNAを含む、請求項15に記載の方法。

【請求項26】

核酸部分がアプタマーを含む、請求項15に記載の方法。

【請求項27】

核酸部分がリンカーを含む、請求項1に記載の方法。